

## 記事内容

- ☆2010年度政策制度県要請
- ☆2010平和行動in根室
- ☆2010首都圏統一帰宅困難者対応訓練／第20回チャリティゴルフ大会
- ☆第42次欧州労働者福祉視察／第20回海外交流南アジア視察団
- ☆第11次東南アジア労働福祉事情視察団／最低賃金
- ☆労働委員会とは／11月行動予定
- ☆あけぼのビル

# 埼玉で働く仲間の総意の要請 来年度予算に反映を!

～2010年度政策制度県要請(7分野24項目)上田知事へ提出～

9月28日、連合埼玉は上田清司埼玉県知事に対し2010年度政策制度要請を行った。

要請にあたり宮本会長から「三つの指針に基づく県政運営に取り組む上田知事に敬意を表する。本日の要請は埼玉で働く仲間の総意として受け止め、積極的な検討をぜひとも願います」と述べた。また近年、一向に減らない自殺者の対策としてゲートキーパー養成についてふれた。

要請を受けた上田知事は、「日頃より県政推進にあたり、連合埼玉の協力に感謝する。県政を進める中で、まだまだ十分でない部分のご指摘を今回いただいた。特に、障害者に対する問題、消費者教育の関係は克服したいと思っている」と挨拶された。その後、自殺者対策、自転車の交通事故問題、省エネ対策、教員の多忙対策、人権・男女平等問題など、今回の要請項目について幅広く現状を述べた。

なお、10月末に県の関係部局と話し合いを持ち、平成23年度の予算編成に反映されるよう取り組み

を進める。また、各地域協議会においては11月から12月にかけて該当エリア内の市町村に対し、政策制度要請を行う予定となっている。

※要請内容は、連合埼玉ホームページに掲載しますのでご覧ください。



宮本会長より上田知事へ政策制度要請書を手渡し

# 2010 平和行動 in 根室

— 9月11日～13日 11名が参加 —



加藤 幸一  
(埼玉団責任者)

根室の日の出は9月でも4時台!早起きして丘の上から見た本土最東端の日の出に独り感動。納沙布岬から望む「北方領土」はまさに手が届きそう。高潮時には水没する岩礁に灯台を建てて領海主張してしまう彼の国、日本海の小島を60年近くも占有しヘリポートまで建設しようという彼の国、はたまた東シナ海の日本海域での民間事件を国家問題にしようとする彼の国。そして、自国領域への海兵隊移転経費の負担のみならず、繋ぎの基地建設まで要求する彼の国。65年を経てもなお戦後は終わっていないことを実感しました。



集合写真

## 日程

1日目  
(9/11)

### ■「北方四島学習会」

時間：15:00～17:00  
会場：北海道立北方四島交流センター(二・ホ・ロ)  
内容：返還運動の歴史や四島の自然、在島ロシア人の暮らしを学ぶ

2日目  
(9/12)

### ■「2010平和ノサップ集会」

時間：11:00～12:00  
会場：納沙布・望郷の岬公園

### ■うまいもん祭り

時間：12:30～14:00

## 参加者

森本 功 (戸田・蔵地域協議会・日本アンテナ労働組合)  
大木 幸雄 (川越・西入間地域協議会・NTT労働組合川越分会)  
小川 武 (比企地域協議会・ソーシング労働組合玉川支部)  
湊 健 (西部第四地域協議会・新元元工業労働組合)  
加藤 隼 (JAM埼玉・日本鉄管労働組合)  
大川かつよ (サービス・流通・ヨノフードセンター労働組合)  
榎本 友子 (自治労・桶川市職員労働組合)  
酒井 章貴 (連合埼玉青年委員会・建設埼玉)  
成田 良子 (連合埼玉女性委員会・ヨノフードセンター労働組合)  
加藤 幸一 (連合埼玉執行部・自治労)  
渡邊 史子 (連合埼玉・職員)



森本 功

ノサップ岬からは、国後島が良く見え、こんなに近くにありながら自由に行き来出来ない現状を早く平和的に解決して、誰もが行き来できる将来が来ることを願います。



大木 幸雄

新聞やテレビしか目にした事の無かった「北方領土」が現地を訪れる事により理解が深まった。北方四島の現状では、「日本最後の秘境」とも呼ばれている自然の宝庫は島の開発が本格化することにより急速に変貌し始めていると言う。

旧ソ連が日本国有の領土を不法占拠してから65年、現在1万7000人のロシア人が暮らしていて我々日本国民は、一人ひとりが、認識を深め一日も早く四島返還が実現する様願いたい。



小川 武

現状、ロシア政府は新クリル社会経済発展特別プログラムを展開中との事、何百億もの予算を投入して行われる巨大プロジェクトが完成したら、到底返還に応じることは不可能ではないのだろうか。

今回の活動で私自身、北方四島の歴史的認識が高まり、またビザなし渡航や地元住民との交流等、地道な活動の成果を挙げている事を知る事ができたが、四島の現状を知ると、返還への道のりは遠く険しいと感じずにはいられない。

しかし、この活動に関わった以上、地道な活動員の一人として一人でも多くの人に活動の輪を広げ、国民の声となり「近くて遠い自国の地」から一日も早く名実共に自国の地と呼べる日が来るまで、活動していく所存である。



四島のかげ橋



加藤 隼

平和集会、北方四島学習会に参加し、学生の頃に学んだ時に比べて身近に感じました。平和集会では、納沙布岬から歯舞群島は肉眼でも眺めることが出来ました。

平和集会、北方四島学習会に参加したことで、北方領土返還運動の大切さを改めて感じました。私達一人一人が北方領土問題に向き合い、両国間の平和と友好、信頼関係を築くためには、北方四島の返還を実現し、平和条約を一日も早く締結することを願っております。



2010ノサップ集会 挨拶をする古賀会長



返せ! 北方領土



歯舞漁港での  
「うまいもん祭り」



大川かつよ

私達本土で生まれた人間は北方領土で生まれた人達と比べたらどんなに、幸せなのか分かりません。新聞や雑誌などで「北方領土」について、目にすることはありましたが、私の周りには「北方領土」を詳しく知る人もなく、正直なところ私にとって身近な問題ではありませんでした。今回「平和行動」に参加して、「北方領土」について少し理解できた気がします。これからは意識して目を向けていきたいと思います。



湊 健

なぜ返還を求めているのか・・・恥ずかしながらその歴史背景を知らなかった。

第二次世界大戦直後に侵略された事実、日ソ中立条約を結んでいるのに、理不尽さに怒りが込み上げてきた。実際現地で生の声を聞き、北方領土を納沙布岬から展望し、より返還へ想いが強くなった。

また全国各地からの参加者に連合の組織力を強く感じた。若者も本当に多かった。若い人が歴史を正しく理解し、この問題を風化させないようにしないとけない。



榎本 友子

北方領土に関して知らないことばかりの私。今回パソコンの力を借りてではあったが自分なりに事前学習をしてから参加した。学習会場の二・ホ・ロの意味に始まり、北方領土の歴史など基礎知識を得て集会に臨むことができた。今、ロシアは石油バブルを背景に巨額な予算を投入し北方領土の開発を進め、資源枯渇や自然破壊が危惧されているとのことだ。合わせてビザなし交流の締め付けも始まっているとの事。更に近くて遠い島「北方領土」になりかねない。高齢化が進む元島民の望郷の思いを耳にし、領土復帰は国民全ての願いとした世論を盛り立てる運動の輪を広げていくことの大切さを痛感した。小さな力が大きな力になるよう連合の仲間としてこれからも運動に携わっていききたいと思う。



酒井 章貴

北方領土に関する私の認識は、日本の領土だがロシアに占拠されている島々だという程度のものでした。しかし北方四島交流センターで行われた学習会で現在の北方領土の状況や自然環境の保護という見方からの講演を聞くにつれ自分の北方領土に対する認識のなさを反省しました。

翌日に開催された「2010平和ノサップ集会」では、納沙布岬にある望郷の岬公園から実際に北方領土を見ることが出来ました。その島々を見ながら日本の領土であるにもかかわらずロシア政府に自分の国であるかのように開発され、自然環境まで破壊されている状況を考えて複雑な思いがしました。

多くの人に北方領土問題に関心を持ってもらい、四島の現在の状況を知ってもらう事が、北方領土の返還に近づいていくのではないかと思います。



成田 良子

北方領土、よく聞く言葉だが、「納沙布岬から目に見える島々がロシアに占拠されたまま長い年月が過ぎている」とても大きな問題である。

根室の納沙布岬からすぐそばにある故郷に帰れない島民の怒りの叫びを聞き、また日本の領土であり故郷であるのに行くことの出来ない悲しいことが現実には起きている。元島民の方たちも高齢化を迎えている今、一刻も早く故郷に帰り平和な生活が出来るよう望む。そのためには北方領土問題を忘れてないで、一日も早い北方四島一括返還が実現できるように、自分たちでありのままの歴史や事実を忘れてしまわないよう、また風化させないよう後世に語り継ぎ返還運動に取り組む重要性を実感した。

# 各地域から「防災意識」づくり

## ～ 2010 首都圏統一帰宅困難者対応訓練～

9月25日(土)「首都圏統一帰宅困難者対応訓練(主催:東京災害ボランティアネットワーク)」が、日比谷公園を基点とした埼玉・千葉・神奈川・東京都内の4コースに、埼玉県庁から草加市に向かう「県内コース」を加え、合計5コースで開催された。

埼玉に関するコースは、日比谷公園から草加市へ向かう「埼玉コース」、埼玉県庁から草加市へ向かう「県内コース」と、ゴール地点を同じにする2つのコースが設定された。

早朝、それぞれのスタート地点では、雨が降る中、実行委員やボランティアの皆さんによりテント設置と受付作業が進められ、当日集まった参加者はゼッケン、水(ペットボトル)、乾パン、地図を受け取り、午前10時に草加に向けてスタート。昼過ぎには急速に天気が回復し、途中のエイドステーションでリタイアした人もいたが、午後2時過ぎには先頭集団が、午後4時30分までには草加市綾瀬川左岸広場まで続々とゴールすることができた。

「埼玉コース(日比谷公園～草加市)」では304人中246人が、「県内コース(埼玉県庁～草加市)」では165人中159人がゴールにたどり着いた。



雨の中、日比谷公園を出発!



浅間神社エイドステーションに到着

訓練では、徒歩帰宅の体験やAS(エイドステーション)で沿道支援をする参加者の他に、情報伝達訓練として①徒歩訓練参加者への携帯サイトを利用した情報提供、②ASから徒歩参加者への情報提供、③MCA無線の利用とバイク隊による本部～AS間等の運営情報の受発信などが行なわれた。

今回の訓練で、徒歩帰宅者支援やAS運営に災害ボランティア救援隊より40名、「川口地協」「東部地協」「さいたま市地協」より32名の方々に、一般の徒歩帰宅者として構成組織より160名にご協力をいただいた。

また、埼玉県をはじめコース上の自治体や県・市社会福祉協議会との連携

も深まり、各地域への「防災意識」づくりにも貢献したと考える。

なお、今年も環境に配慮し、紙コップの使用削減(ペットボトルへの給水)や「マイカップ」使用を呼びかけ、多数の方にご理解とご協力をいただいた。災害時の避難グッズにぜひ取り入れていただきたい。



ゴールの草加市綾瀬川左岸公園



## 第20回チャリティーゴルフ大会開催

日 時 2010年9月17日(金)  
場 所 平成倶楽部鉢形城コース(寄居町)  
参 加 者 172名  
チャリテイ募金 133,862円(連合埼玉ふれあい募金に寄付)



順位	グロス	ハンデ	ネット	組織名	氏 名
優勝	88	19.2	68.8	川口地協	高岸 昇
準優勝	89	19.2	69.8	電力総連	中野 秀一
3位	82	12.0	70.0	JEC連合	手塚 章徳
B・G	75	0	75.0	連合埼玉役員OB	岡本 清

## 労働者福祉中央協議会「第42次欧州労働者福祉視察」

### “働き方の新しい選択肢・モンドラゴン協同組合”《スペイン・ビルバオ》

皆さんは「協同労働」という言葉をご存じだろうか？働く人が出資して起業し、経営にも参加する仕組みで、いわゆる「経営者と労働者の二者しかない働き方」に対する新しい働き方の選択肢である。恐竜の名前のようなモンドラゴン協同組合は、その発祥の地でもあり世界最大の組織だ。同組合には256団体（うち企業体は120）があり大部分は製造業だが、金融として全国に400店舗を持つ労働人民金庫の他に小売りスーパーとしてのエロスキグループ、3学部を持つ大学などで構成されている。「金儲けでは無く、雇用を創出し社会のためになる富を作り配分する」ことを理念に掲げ実践している。



モンドラゴン協同組合（スペイン・ビルバオ）

### “ドイツ人が一番住みたい環境の街”《ドイツ・フライブルク》

フライブルクはシュバルツバルト（黒い森）の北の入り口に位置する大学、金融都市で、ドイツ人が住んでみたい、行ってみたい、学んでみたい街NO.1だそうだ。ドイツ人を惹きつける理由は、森林・清流などの自然で、環境首都とも呼ばれている。まず驚くのがパーク&ライドの徹底で、市街地入り口で車を駐車し市電に乗り換え市内に入ることによって車の排気ガス低減を目指している。副産物として市内商業の活況も取り戻したそうだ。また、冬の寒さが厳しい当地の住宅政策として、徹底的に熱効率を追求した暖房コストゼロ住宅はすなわちCO2ゼロ住宅でもある。そして、自然エネルギーの最大利用を目指し、サッカースタジアムやメッセ、集合住宅の屋上など至る所に太陽光パネルが光り、風力発電の羽根がゆっくり回り、小川には小型の水力発電施設がタービンを回している。こうして得られた電力合計は、市の必要電力の約半分を賄うほどだそうだ。



水力発電施設（ドイツ・フライブルク）

### “ショパン生誕の地は食糧ロス低減中”《ポーランド・ワルシャワ》

フードバンク（FB）先進地域の欧州では、2万6千の組織を通じて年間470万人に食糧を配分している。ポーランドでも30か所のFBが活動しており、2009年には1200トンの食材供給をフードメーカーから受けている。同年の法改正で拠出メーカーは供給額を課税控除できるようになったことで伸びたそうだ。ワルシャワだけで132組織6万人に供給している。ルールは利益を生まず、個人や家庭ではなく福祉組織に配分すること。政治スタンスはフリーで「大統領が変わってもFB活動は続く」と言われている。

連合埼玉副会長 小林直哉

## 連合関東ブロック連絡会「第20回海外交流南アジア視察団」

9月19日、ホーチミンへ到着。迎いのバスに乗りホテルに到着後、有名なベンタン市場の視察へ。翌日午前中には市内の「ヴァン・ギエム寺」、「戦争証跡博物館」、「サイゴン大教会」を視察、戦争の傷跡がまだ完治していないことを実感させられた。午後には「ベトナム味の素（有）」ビエンホア工場を公式訪問。輸出をメインに製造をしているのかと思いきや、内需主体ということに驚かされた。また、社長自ら対応をしてくださり、現地の労働環境やベトナム進出後の血の滲むような努力についても親切にご説明をいただいた。3日目にはベトナム交通運輸労組を公式訪問。日本とベトナムでは労働法が大きく違っているものの、労働組合の本質に変わりはないと思った。

連合埼玉執行委員 山本 健



ヴァンギムン寺視察

9月21日（火）、カンボジア（シュリムアップ）へ移動した。到着したシュリムアップの町は、世界遺産でもある「アンコールワット」などクメール王朝時代（9世紀～15世紀）に築いた遺跡がある町で、近年、急速に観光として外資参入により新しい道やホテルができ、携帯電話も普及している一方、一歩わき道に入ると、まだ素足で歩く子供もいるという貧富の差を感じる町でした。

今回訪問した、山本日本語教育センター（通称：山本学校）は、1996年3月に設立され、長い内戦により疲弊したカンボジアの復興と日本とカンボジアの友好を深めるために、地元の理解と協力を得て設立されました。「山本学校は、カンボジアで日本語を学びたい」と願う意欲的な若者を中心に教育をおこなっており、3か月コース、1年コースが用意され、自宅から通学できない生徒には、寮まで準備して、徹底した語学学習（日本語資格取得）を初め、日本の礼儀作法や考え方を教えている学校でした。卒業後は日本語を活用した企業（ガイド、レストラン、事務など）への就職、大学の進学など、これまで多くの卒業生を送りだしているとのことでした。

我々も、日本語の授業に参加し、生徒の皆さんと楽しい交流を深めました。また、日本語の教える先生は、日本から赴任してきた2名の女性の先生が担当され、心のこもった授業に感心しました。カンボジアと日本の友好関係が、日本人の「心と言葉のかけ橋」で結ばれていることを感じた訪問でした。

連合埼玉執行委員 平尾幹雄



ベトナム交通運輸労組との対話



山本日本語教育センターの授業に参加



生徒のみなさんと記念撮影

## 社団法人埼玉県労働者福祉協議会「第11次東南アジア労働福祉事情視察団」

9/29～10/1にシンガポールに滞在し、NTUCとJETROの視察を行った。  
NTUC(全国労働組合会議)はシンガポール唯一のナショナルセンターで約56万人が加盟している。NTUCは労働者がよりよい暮らしが出来る事をミッションとしており、労使関係は非常に良好である。これは近代化セミナー以降に対立的な労使関係から協調的な労使関係へと転換したため、労使争議はあるものの、ほとんどが労使で解決をしているのも特徴的である。

JETRO(日本貿易振興機構)では、経済連携促進アドバイザーの山口氏より「シンガポールの強さの秘密」についての説明があった。シンガポールは天然資源や農業がなく、土地狭小、人口が少ないなどの弱みがある中、政府として生活満足度調査を行い、「有言実行」と「訂正する勇気・自信」により今日の繁栄を築いてきた。

9月末は労組年度の切り替わりの時期で日程的に厳しい視察だった。また、インターネットで現地の情報はいつでも手に入る時代だが、現地で現物を確認しながら各国の労働福祉事情を経験することは良い機会と思われるので、今後も次世代の方に積極的に参加してほしいと思った。

連合埼玉執行委員 安田英正

ベトナムでまず訪れたのが、NECTーキンのベトナム工場でした。安い労働力を求め、ベトナムへ進出した日系企業の現状を、現地法人の山田社長より企業の概要説明を受け、その後6,000名が働く工場を見学しました。

工場を見学し驚かされたのは、何といてもラインのほとんどが、工具を使った手作業だということ。オートメーション化の進む日本国内では想像もつかない風景で、びっくりさせられました。山田社長によると「オートメーション化を進めるより、現状のベトナムの賃金では人を雇ったほうが安く効率的だ」とのこと。

他にも、ホーチミンの自治体の婦人部で運営する孤児の保護施設や、かつてのベトナム戦争の爪痕の残るクチ村の地下要塞などを視察し、有意義な8日間を過ごしました。

連合埼玉執行委員 荻野晃喜



NTUCとの合同会議



NECTーキン ベトナム工場の見学



団員から集めたカンパ金を孤児院に寄付(ホーチミン)

### ～埼玉県最低賃金の改正について～ 必ずチェック最低賃金! 使用者も、労働者も

埼玉県最低賃金は、県内すべての労働者とその使用者に適用されます。  
この金額は、賃金や物価等の動向により決定されるもので、さまざまな面での労働条件の改善に重要な役割を果たしています。  
本年は10月16日から時間額750円(昨年より15円UP)に改正されました。  
なお、特定の産業については特定(産業別)最低賃金が適用されます。

#### ■埼玉県最低賃金額

**時間額 750円**  
(平成22年10月16日発効)

●詳しくは埼玉労働局賃金室  
(電話048-600-6205)  
または最寄の労働基準監督署へ  
お問い合わせください。

産業別	時間額(円)
非鉄金属製造業	817
電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、電子部品・デバイス製造業	821
輸送用機械器具製造業	832
光学機械器具・レンズ、時計・同部品製造業	829
各種商品小売業	790
自動車小売業	831

(平成22年12月9日に改定されます)

# 労使間のトラブルで悩んでいませんか？ 職場のSOS「要・解決」



## ■労働委員会とは？

公益・労働者・使用者の立場を代表する委員で構成された、労働者と使用者との間のトラブルを解決するための専門的な都道府県の行政機関です。

## ■あっせん制度

○個々の労働者と事業主との間で労働条件などのトラブルが起きた場合、当事者の申請により、あっせんを行います。

○公益、労働者、使用者を代表するあっせん員が双方の主張を聞いて、歩み寄りによる解決をお手伝いします

### 【例えば・・・】

- ・解雇されたが、納得がいかない。撤回してほしい
- ・雇止めをされたが、更新してほしい
- ・配置転換を命じたが、理由もなく拒否されたので、解決したい

## ■制度の特色

**三者構成**・・・労働問題の専門家で経験豊富なあっせん員が①公益側(弁護士等)、②労働者側(労働組合役員等)、③使用者側(会社経営者等)の三者構成で、公正かつ丁寧なあっせんを行います。

**簡単**・・・申請書を労働委員会へ提出するだけの簡単な手続きです。

**迅速**・・・他の機関より早く処理することができます。

※1カ月以内に処理が終了した割合  
⇒ 68.2%(全国統計(19年度))

**無料・秘密厳守**で行われます。

## 現在予定される11月の日程表です

11月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	月	連合春闘中央討論集会
2日	火	関東ブロック海外交流会南アジア視察団解団式(17:00～・ホテルラングウッド)
3日	水	秩父地協代表者会議(14:00～ 4日・石和温泉)
4日	木	地方委員会議長団会議(17:00～・連合埼玉会議室)
5日	金	教育フォーラム(13:30～・ときわ会館)
6日	土	
7日	日	県央地協幹事会(役員研修会)(13:00～・渋川市)
8日	月	民主党県連政経文化の集い
9日	火	第12回四役・執行委員会(ときわ会館)
10日	水	
11日	木	①第5回地方連合会事務局会議(13:30～・総評会館) ②中央労金埼玉本部運営委員会
12日	金	比企地協幹事会(18:00～・労金東松山)
13日	土	
14日	日	埼玉教組埼玉教育研究集会(9:00～・国立女性教育会館)
15日	月	
16日	火	社会保険診療報酬支払基金幹事会
17日	水	
18日	木	第17回地方委員会(ロイヤルバインズホテル)
19日	金	ときわ会館企画委員会(10:00～・ときわ会館)
20日	土	
21日	日	
22日	月	
23日	火	
24日	水	第10回女性委員会幹事会(16:00～・連合埼玉会議室) ①全労済埼玉経営委員会(10:00～) ②ときわ会館理事会(13:30～・ときわ会館) ③連合春闘格差是正フォーラム(13:30～・ホテルラングウッド)
25日	木	シニア連合第14回総会(14:00～・あけぼの501) ①埼玉地方労働審議会(10:00～) ②東部労福協第45回定期総会(14:00～・宇都宮東武ホテル)
26日	金	青年委員会第22回定期総会(16:00～・さいたま共済会館)
27日	土	
28日	日	①ユニオン連合埼玉定期大会 ②連合関東ブロック連絡会第4回幹事会(28日～29日)
29日	月	構成組織・地方連合会中小担当者会議(13:30～・連合本部)
30日	火	

# あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

## ◇自殺予防週間に「働く人の電話相談室」を開設

いま、多くの職場が多忙化し、倒産、失業のリスク、過酷なノルマや長時間労働、職場のいじめやパワーハラスメント、低賃金・不安定雇用による生活苦、多重債務など、働く人が抱える問題は、深刻な心の悩みを引き起こしている。さらに、心の健康に変調をもたらして「自殺」のリスクを高める要因にもなっている。働き方そのものを見直し、メンタルヘルス対策を充実させていくと同時に、今すぐ、サポートが必要な人のために、連合埼玉は日本産業カウンセラー協会北関東支部との共催で、自殺予防週間(9月10日～16日)にあわせて、9月10日(世界自殺予防デー)～14日迄の5日間、「働く人の電話相談室」を開設した。

「働く人の電話相談室」は日本産業カウンセラー協会が連合の協力を受け、9月10日～12日に全国13の支部で一斉に無料電話相談を実施しており、今年で4回目となる。連合埼玉と日本産業カウンセラー協会北関東支部との関係は、メンタルヘルスセミナーの開催や「ネット21運動」の出前講座の講師陣として協力関係にあり、職場におけるメンタルヘルス対策等について日常的な連携をはかってきたことから、全国初の共催を試みた。

## ◇寄せられた崖っぷちの叫び

5日間開設した電話相談室には168件の相談が寄せられ、相談内容の主たる訴えの上位3つは、キャリアカウンセリング(求職、転職・退職、仕事の適性等)31件、職場の問題(人間関係、職場環境、仕事のこと等)29件、自分自身のこと(病気、生き方等)28件であった。

相談者の年代を見ると、特に30歳代男性の相談が50件を越えており、次いで50歳代男性の17件、20歳代男性の13件と続いている。30歳代の相談内容では、自分自身の生き方やメンタル不調・病気等が多く寄せられており、一方で50歳代の相談は、悩みに偏りがなく広範にわたっている。20歳代では職場の人間関係やコミュニケーション不足により職場への適応に苦慮していることなど、どのように生きていこうかといった、自分自身への問いかけもあった。40歳代では求職や転職についてや今

後どのように働き、生きていくべきかなど、年齢的な転機における相談が寄せられた。また、60歳代では老後の生活への不安が多く、70歳代では中年の息子を心配しての相談や自分自身の病気や生活への不安が多くなっている。

就労状況や就労形態を見ると失業者からの相談も多く寄せられている。失業中で就職活動を行っている人は、生活が保障される職がないことや倍率の高さを訴え、就職活動をしていない人は、あきらめつつも社会への怒りや不満を訴えている。一方で正規社員は加重労働や責任の重さへの負担感、低賃金による将来生活への不安を感じ、転職も視野に入れた相談もあり、不安を抱えながら仕事をしていることへの崖っぷちの叫びが寄せられた。

## ◇私たちがなすべきことは?

今回の相談室に寄せられた相談者の悲痛の叫びは想像以上のものがあり、この生の声を私たちはどのように受け止め、そこから何を学ぶべきなのか。個々の悩みは、その背景にあるものや生き方などによって異なるが、少なくとも私たち労働組合は職場における人間関係の構築や労働環境の改善に取り組み、ともに働く仲間から、心の病に悩み、自殺に追い込まれてしまう人が出ないように組織として取り組まなければならない。

組合活動の原点でもある「世話役活動」をいま一度見つめ直すとともに、さらに強化し、職場に働く仲間の日常の小さな変化にも気づける役員であり、職場でありたい。そして、家庭においては、家族との心の絆が希薄になっていることに気づかないことが、家族の心の病に気づけない要因でもある。

私たち労働組合が、職場からの取り組みを強め、さらには組合員自らが、いま一度家族・家庭のあり様を考えていくことが、12年も連続して自殺者3万人を越す疲弊した社会から活力ある社会へと立て直す一策となりうるのではないかと。民主党政権に代わり、うつ病・自殺対策が強化されているが、国がなすべきこと、地方行政がなすべきこと、そして私たち自らがなすべきことを役割分担し取り組むことが必要である。今回の「あけぼのビル」を、それぞれの職場において、私たち自ら何ができるのか、何をすべきかを考えるきっかけとしてほしい。